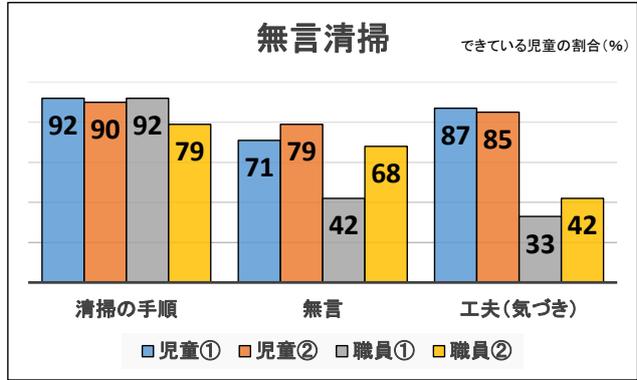
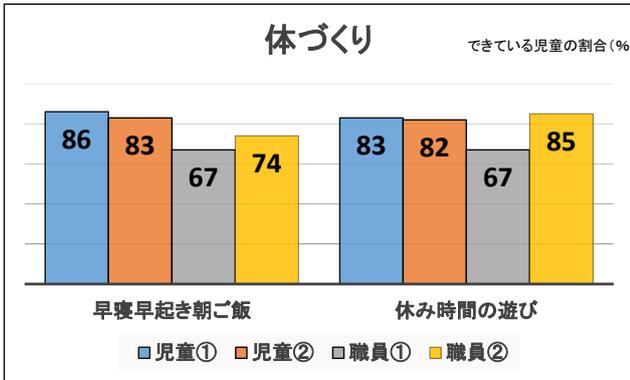
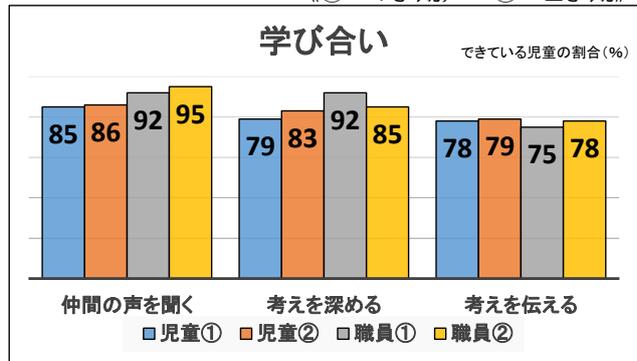
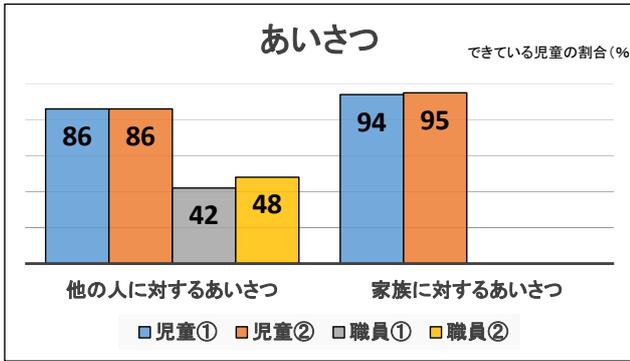


二学期の学校評価のまとめ

1 令和3年度 児童の自己評価・職員による児童の評価（1・2学期の比較）

《①…1学期, ②…2学期》



【重点目標における考察】

○あいさつ (『家族に対するあいさつ』は職員は評価していません)

児童と職員のあいさつの達成度に大きな差があります。あいさつをする児童は確実に増加していますが、声量等を考えるとまだまだあいさつは不十分であると考えています。相手にとって気持ちのよい挨拶ができるように指導していきます。

○学び合い

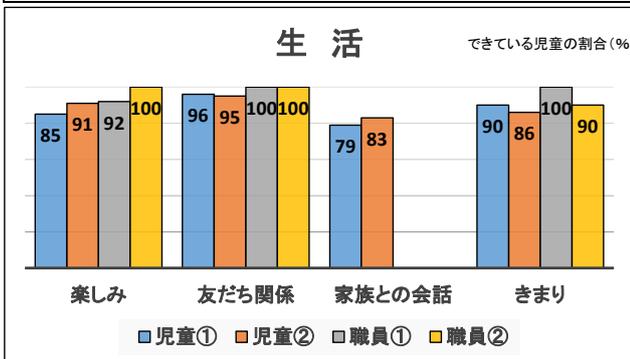
2学期はタブレットを活用した授業が増加しました。タブレットを利用して自分の考えを級友に伝えたり、級友の考えを参考に自分の考えをまとめたり、学習方法が変化してきました。意欲的に取り組んでいる児童が多いです。今後はペア、グループ、全体による学び合いの中にどのようにタブレットを取り入れていけば児童の学びにより有効か、日々の授業改善に取り組んでいきます。

○体づくり

児童の自己評価のポイントはあまり変化がありませんが、職員による評価は上がっています。2学期は新型コロナウイルス感染警戒レベルが下がり学校生活が通常に戻ったため、児童に生活のリズムが生まれたことや休み時間に外で元気に遊ぶ児童が増加したことで評価が上がったと思われます。今後は冬期にどこで、どのように体を動かすか考えていきたいです。

○無言清掃

清掃の手順を理解し、熱心に活動する児童が多いです。『工夫(気づき)』の項目で児童・職員間でポイントの大きな差が見られます。ていねいな清掃の仕方を指導したり時間が余った際に何に取り組みか決めたりすることで、清掃の質を上げます。



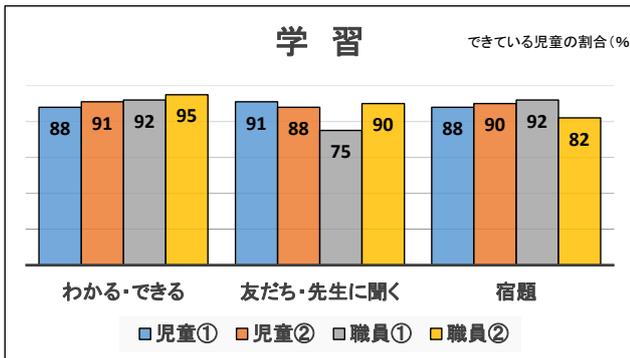
【生活面における考察】 (『家族との会話』は職員は評価していません)

昨年度できなかった活動が実施できるようになったため、学校生活を楽しく感じている児童が増加したと考えます。今後は「楽しみではない」9ポイント(18名程度)の児童にも目を向けていきます。

「友だち関係」については、児童の評価は全項目で最も高く、全体的には安定しているようです。

「家族との会話」については、思春期になると口数が減少する児童もいます。それでも大人から話しかけて、関わりを保つことが大切だと思います。

「きまり(ルール)」については児童・職員共にポイントが下がりました。学校生活に慣れ、きまりを守る意識の低下が見られます。再度、なぜきまりがあり、守らなければいけないか指導していきます。



【学習における考察】

「学習・授業」については多くの児童が満足しています。今後も100%になるように、児童が興味関心を持って授業に関わる教材の準備、主体的に活動する場面の設定、タブレットの有効活用を通して、全員ができた・わかったという達成感を得られる授業づくりをしていきます。そして何よりもお互いに意見を出し合える温かい学級づくりをしていきます。

「宿題」については、職員の評価が下がりました。提出率の低下や取り組み不十分が原因だと思います。家庭での学習習慣の定着や学校での学習内容の復習のために宿題を出しています。継続して取り組むことで確実に力が伸びていくことが実感できるように指導することで、児童の宿題への取り組みの質の向上をはかっていきます。